一般社団法人
全国高等学校PTA連合会 会報
No77
一般社団法人全国高等学校PTA連合会
（連絡先）〒101−0025 東京都千代田区神田佐久間町2−1（奥田ビル）TEL03−5835−5711 FAX03−5835−5757
発行人 相川順子　URL http://www.zenkoupren.org/　e メール info@zenkoupren.org

第63回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会山口大会が「夢から志へ―たくましく生きるチカラを育むために、今、私たちができること―」をテーマに、8月21日（水）、22日（木）の２日間、山口県スポーツ文化センター・アリーナをメイン会場に開催されました。明治維新における長州藩士の精神的支柱であった吉田松陰の故郷山口県に、猛暑の中全国から約１０，０００人のＰＴＡ会員及び関係者が参加しました。

萩市立明倫小学校児童による「朗唱」に続いて開会式が行われ、相川順子大会会長が式辞を述べて、多々良健司大会実行委員長が挨拶しました。来賓の下村博文文部科学大臣、山本繁太郎山口県知事、柳居俊学山口県議会議長による祝辞がありました。表彰式が行われ、文部科学大臣表彰として、優良ＰＴＡ団体と５年に一度選ばれるＰＴＡ活動振興功労者が下村大臣から表彰されました。さらに全国高Ｐ連会長表彰として団体・個人に賞状と記念品が授与されました。

式典後は、安倍晋三内閣総理大臣のビデオメッセージの後に、下村文部科学大臣から「日本の教育の再生」と題した講演があり、教育の影響力の大きさや教育制度の抜本的な改革の必要性について様々な事例や数値を交えながらお話されました。なお今大会は、初の分散型での開催となり、メイン会場のライブ映像が６つの会場へ配信されました。

午後からは７つの会場で記念講演と分科会が行われました。終了後、山口県立防府商工高等学校が開発したお笑い体操で心身をほぐした後、閉会式が行われました。次期開催県福井県の挨拶、そして多々良委員長により大会宣言が読み上げられて長い一日に幕を下ろしました。

今号の主な内容

●全国大会　山口大会　１頁
会長式辞・実行委員長挨拶　２頁
文部科学大臣基調講演「日本の教育の再生」　３頁
記念講演　４頁
研究発表／大会宣言　５頁
分科会報告　６～７頁

▲写真は国際バレーボール連盟より提供

●シリーズ青春白書　全国からの便り
（沖縄県立久米島高等学校・愛知県立旭丘高等学校）　８～９頁
●全国会長・事務局長研修会報告／各委員会報告　10頁
●シリーズ視点　世界に羽ばたけ！輝く高校生！　11頁
●ホームページリニューアルのお知らせ　12頁

全国高Ｐ連ＨＰでもご覧になれます。　URL:http://www.zenkoupren.org/

式辞

一般社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会　会長
相川順子

今年の大会は、七つの会場に分散しての大会となります。それぞれの会場にお集まりいただきましたが、会場は分散しても、この大会に臨む想いは一緒でございます。ご不便をおかけするところもあろうかと思いますが、今日一日よろしくお願いいたします。

さて、今年の夏は猛暑に悩まされ、経験した事のない集中的な豪雨に襲われた地区も多く、被害に遭われました皆様方には、心よりお見舞い申し上げます。また、東日本大震災で被災された高校生に対して、全国の皆様より多くの温かい義援金をいただきましたことに心から感謝申し上げます。全国高Ｐ連では引き続きまして、支援をしていきたいということで、今後も皆様にご理解を、そしてご協力をお願い申し上げます。

「夢から志へ」を大会テーマとして、第63回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会「山口大会」が全国各地より、約１００００人の会員が集い、明治維新の精神的指導者であり教育者として知られる吉田松陰先生の故郷である、ここ山口県にて開催する事ができました。本日は、下村文部科学大臣、山本繁太郎山口県知事をはじめ、沢山のご来賓の皆様方をお迎えし、盛大に開催できますことに厚く御礼を申し上げます。

全国高Ｐ連は、高校生の健全育成を目標に、自主事業を展開して参りました。今大会でも青少年の健全育成にかかる研究発表を行い、全国の高校生の実態調査を通して得た事実を皆さんで共有し、子ども達の健全育成に資することを目指しています。また、全国高Ｐ連は、子ども達の安全を守る視点で、急増している自転車事故等に対応すべく、賠償責任補償制度を平成14年度に設立しております。この制度を活用して、生徒やご家族をお守りしたいと願っております。その想いは今後も緩むことなく、皆様のご協力によって、さらに充実した活動をしたいと思っております。

高校生を取り巻く問題は、社会の変化とともに多様化してきました。グローバル化により、就職や大学入試のあり方など、キャリア教育に関わる課題も浮かび上がってきました。また、体罰や、いじめの問題などについても見逃してはなりません。私たち保護者は、学校や地域社会の中で何が起きているのか事実をしっかりと捉え、正しく受け止めなければなりません。

子ども達は、小さかった頃の自分のなりたかった職業を夢見、憧れていた時代から、学年が進むにつれてその夢を諦める傾向にあると指摘されております。将来を展望することが難しい時代だからこそ、私たち大人が未来に向かっていく道筋をしっかりと支援していくことが求められています。高校生が社会の一員として、広い視野に立ち、自分の夢を成し遂げられるように、私たち大人の役割について、今大会で確認しあいましょう。

結びに、長年ＰＴＡ活動にご尽力され、本日、優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰や、５年に一度の受賞でありますＰＴＡ活動振興功労者表彰を受賞される皆様方、そして全国高等学校ＰＴＡ連合会会長表彰を受賞される皆様の功績に敬意を表しますとともに、今後とも地域の活動にご支援くださいますよう、お願い申し上げます。

挨拶

第六十三回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会
山口大会実行委員長
多々良健司

とても暑い中、本州最西端の山口へ、ようこそおいでました。全国大会って一体何をするんだろうと４年前から研究を重ねてきました。全国大会＝研究討議大会であろうとの結論に至り、７つのテーマで研究討議する場を用意させていただいております。例年と少し違うところは、ここ十数年にわたる、全国の高等学校ＰＴＡ連合会がストックしている健全育成への調査を基に、子ども達の、あるいはＰＴＡのやる気のスイッチを入れるにはどうすればいいのだろう、自己肯定感を目覚めさせるにはどうすればいいのだろうということについて、木原先生に発表していただきます。このような発表の機会は、全国大会では過去になかったと思います。

それと、特別分科会の中で、熟議という方法を用いて、皆さんの意見や意識の掘り起こし、あるいは集約を試みようと思っています。

この中の一つのテーマに、和歌山でもございました「地域と防災」についてのテーマも引き継がせていただいております。もう一つ、社会環境の変化に伴い、高等学校の再編、これはもう避けて通れない事実だろうと思っています。これに直面しているところ、あるいはそれを成し遂げている山口の実例をもとに、パネリスト達にいろんな話をお聞きする、そういう場もお持ちしました。

第二次安倍内閣の中で、教育再生実行会議が催されております。その冒頭に、総理はこのように申されました。経済再生もだが、教育再生も重要なテーマであると、強い日本を取り戻すために、今やらなくてはならないこと、この事に関しましては、後ほど下村大臣の方からまたお話を伺えると思います。

山口は中世より、日本の歴史を引っ張ってきた自負があります。京都が応仁の乱で傷んでいるとき、山口は明との貿易を支え、サビエルを擁護し、雪舟を明に送りました。そして、約１５０年前、萩の小さな松下村塾で、日本を動かす動きが始まりました。ある方が言われています。山口は山と水に迫ったこんな小さな所だけれども、分厚い歴史と、そしてたくさんの文化の座布団の上に立って、次の時代を担うことをやっている、そんな所だ、というふうに言われております。

今日はそのような山口で、皆さんの想いが、そして今後に向けてのいろんな知恵が集まることを祈念して、大会の挨拶とさせていただきます。

基調講演（要旨）

文部科学大臣　下村博文

基調講演では、安倍晋三総理大臣のビデオメッセージに続き、下村博文文部科学大臣に「日本の教育の再生」をテーマに講演をしていただきました。

日本には、「少子高齢化の進展」、「非正規雇用の増加」、「子供の貧困率の上昇」、「我が国の国際的な存在感の低下」、「高校生の低い自己評価」、「将来不安」、こういう現状があります。

日本は１９９０年代くらいまでは、１億国民総中流階級と言われておりましたが、実は、ＯＥＣＤ諸国の中では格差が拡大しています。子供の貧困率が高く、そして更に増えているという傾向があります。ひとり親家庭の子供の貧困率は60％。貧困の格差が結果的には教育の格差につながっています。親の経済格差が子供の教育格差に繋がらないような取組みが必要であると考えています。

日本は世界第３位の経済大国で、以前に比べれば豊かで経済的にも発展しています。しかし幸福感覚でいくと、世界では中位あるいは下位という状況があります。また日本には、ニート・フリーターが１８０万人近くいるといわれています。若い人たちは、20世紀型の近代工業社会を支えてきた教育の価値観ではなく、21世紀を生き抜くための新たな教育の価値をきちんと伝え、教えなければ、この社会の中で幸せを感じることができません。我が国の教育の価値観としても、幸福感を感じるような教育とはどんな教育なのか。このようなコンセプトで教育改革・教育再生を考えていく、そういう時代の転換期がきていると思います。

「自分が価値ある人間だと思うか」との質問に、「はい」と回答した日本の高校生が39・7％であるのに対し、アメリカが79・7％、中国が86・7％、韓国が86・7％となっています。一方、「自分はダメな人間だと思うか」という質問には、日本の83・6％の高校生が「はい」と答えています。これはなぜなのか？ひとつはこの20年間続いたデフレ経済の景況も大きくあると思いますが、日本の歴史教育にも問題があると思います。歴史というのは光もあれば影もあります。両方正しく教えることが必要なのに、今は影ばかりを教えています。また、将来、自分がどうなるか不安であるとの質問には、全くそうであるが38・7％、まあそうであるが44・9％と答えました。超高齢化社会とグローバル社会が一緒に到来する、こういうときにこそ、教育再生が必要であると思います。

先月、大分県の豊後高田市に視察に行ってきました。豊後高田市では、学校・家庭・地域が協働し、地域総がかりで、子供たちの学習や体験活動を支援する土曜授業を行っています。学力テストで27市町村でワースト2だったのが、土曜授業を導入した翌年から8年連続でトップになっています。これは素晴らしい取り組みだと思います。全国の教育委員会でも取り上げたら、子供たちの意欲は随分と増してくるのではないかと思いました。このような取組を支援するため、来年度の予算に計上して、全ての教育委員会で取り組んでもらえるようバックアップ態勢を作りたいと思います。

次に教育再生を実現するための具体的な政策についてお話していきたいと思います。

政策１は、大学入試の抜本的な見直しです。大学入学試験を変えるということは、大学教育はどうあるべきかというだけでなく、高校の教育も変えていきます。高校教育、大学教育、大学入学者選抜、この三者を一体的にとらえた改革が必要となってきます。

政策２は、グローバル人材の育成です。小学校から大学までを視野に入れた政策を講じ、日本人学生の内向き志向を変えていきます。

政策３は科学技術イノベーション人材の養成です。大学の理工系学生は減少しており、高校から研究者までを俯瞰した体系強化が必要です。実践的な教育を行うことで、裾野の拡大、トップ層を伸長することで、新産業を支える科学技術に優れた人材を育てていきます。

政策４はキャリア教育、職業教育の充実です。職業高校に対して、体系的な体制をつくり上げることが大切です。普通高校に行けないからではなく、誇りを持てるよう選択肢を作り、多様な人材を育成していきます。

政策５は高校教育の改革です。高校生の学習ニーズや進路等に対応した多様な教育で、意欲のある高校、高校生を伸ばす教育にシフトしなければなりません。また、教育費負担の軽減を図り、実質的な教育の機会均等の実現に向けて、高校授業の無償化制度を総合的に見直します。

政策６は大学教育改革です。教育は未来への先行投資です。積極的な教育における投資を文部科学省が先頭に立って対応していきたいと思っています。そして世界で戦えるグローバル人材、イノベーション創出を担う人材、地域に活力を生み出す人材、国内に眠る研究資源を開発して日本発の産業を育成していきます。

政策７は社会人の学び直しです。日本は、25歳以上の学生の割合が２％しかありません。日本の経済は発展のためには、学び直しができる、社会的な環境作りが必要です。社会で通用するようなオーダーメイド型プログラム、そして、給付型奨学金で学び直しができるチャンスを設けます。

政策８は、いじめ・体罰の根絶です。各教育委員会、都道府県、市町村に条例を作っていただきたいと思います。

日本人が持つポテンシャル、基礎的な学力、そして道徳心やモラルは、決して世界に劣るものではありません。国境を超えることを躊躇しない、現在を超えて未来に生きることを躊躇しない、そういう飛躍の大志、be ambitious、その取り組みが日本や世界への貢献に繋がると共に、自らを高め、自己実現へとつなげていきます。全ての日本人を１５０年前の長州五傑のような人材に、そして子どもたちの湧き上がるような想いを作る教育環境の整備に文部科学大臣として全力で取り組んでいきます。

（注）本稿は、平成25年8月22日（木）基調講演時のものです。

なお、「公立高等学校に係る授業料の不徴収及び高等学校等就学支援金の支給に関する法律の一部を改正する法律」が第１８５回国会において、平成25年11月27日に成立しました。これに伴い、平成26年４月から新制度を実施する予定です。

記念講演

山口県スポーツ文化センターアリーナでは、「地域の未来をつくるために～子どもたちをどう育てるのか」と題して、日本総合研究所 調査部 主席研究員の**藻谷浩介氏**より、講演をいただきました。

日本の人口動態予測を元に、「かけがえのない人生を送るために、高校教育はどのような人材を育てるべきか」を、歯に衣着せず熱く語られました。「自分なりの生き方への矜持を持つ」「周りと比較することができない、かけがえのない自己を確立させる」『無知の知』を知り、人生を生き抜く力を身につける」という言葉が印象的でした。

山口県スポーツ文化センターレクチャールームでは、「夢を追うこと、自分を活かすこと～龍馬伝に込めた想い」と題して、脚本家の**福田靖氏**より、講演をいただきました。

落ちこぼれだった高校時代。一浪して入学したものの中退してしまった大学時代。劇団を立ち上げ、アルバイトをしながら自分の書いたお芝居を 上演していた日々。3日間寝ずに初めての脚本を書きあげたエピソードなど、人気脚本家までの道のりを、ユーモアたっぷりに話されました。「走っている人間にはパスは出る。走っていない人間にはパスは来ない。間違っているかは気にせずに、とりあえず走りだせ！」という言葉で、講演を締めくくられました。

山口市民会館では『「ピンチをチャンスに」山口の山奥の酒蔵が抱いた夢と志』と題して、株式会社旭酒造 代表取締役社長の**桜井博志氏**より、講演をいただきました。

今にも倒産してしまいそうだった会社が、どのようにして日本を代表する日本酒「獺祭」をつくることができたのかを、数々のエピソードとともに話されました。古い業界の慣習や前例にとらわれることなく、ピンチをチャンスへと変えていく発想力と実行力は、とても参考になりました。また、成長を続けていくために、現状に満足することなく、常に新しいことにチャレンジし続ける姿勢が大切だということを感じました。

山口県健康づくりセンターでは、「吉田松陰の志教育」と題して、萩博物館特別学芸員の**一坂太郎氏**と松陰神社宮司／山口県文化連盟会長の**上田俊成氏**より、講演をいただきました。

幕末～明治時代をリードする多くの人材を輩出した松下村塾の活動期間がわずか2年であったこと。そして塾生が、近所のごく普通の子どもたちであったことに、大変驚かされました。と同時に、改めて、個性を引き出す教育の大切さに気づかされました。

渡辺翁儀記念会館では、「東京スカイツリー®の秘密」と題して、彫刻家／東京スカイツリーデザイン監修者の**澄川喜一氏**より講演をいただきました。

前半は、小学校時代の恩師に似顔絵を褒められたことや、中学校時代に岩国の錦帯橋に興味を持ち、自ら考え疑問を解決したことなど、彫刻家としての原点についてお話されました。後半は、日本古来からの知恵を近代的に解釈して設計に活かしてあるなど、スカイツリーの秘密の一端についてご紹介されました。

ＡＮＡクラウンプラザホテル宇部では、「アルバイトから２００億円企業へ」と題して、株式会社来来亭 代表取締役社長の**豆田敏典氏**より、講演をいただきました。

「おとなの世界は、面白そうと子どもたちが思えるように、自分自身がワクワクする」「失敗しないために先回りして言ってしまうことはやめる」「変えよう！というスイッチは本人しか入れられない」という言葉が印象的でした。

全国高Ｐ連研究発表
「やる気のある子とない子の違い ―ＷＹＳＨウィッシュの視点から」

メイン会場では、京都大学大学院医学研究科社会疫学分野准教授の**木原雅子先生**にご講演いただきました。

全国高Ｐ連が木原先生の全面的なご協力のもとに実施した「平成23年度全国高校生生活・意識調査」のデータを活用しての研究発表です。

▶木原雅子先生による研究発表

まず「現代の思春期の子どもたちの現状と社会」というテーマから、人間関係のリアルな繋がりとバーチャルな繋がりに焦点を当て、「親を尊敬している子ほど自己肯定感が高く、家族がリアルに繋がっているほど子どものリスクが低い」という分析が示され、「子どもの声を聴く大切さ」が強調されました。

次に「子どものことで気になっていること」について参加者同士で話し合った後、10名近くから発言があり、講師との双方向のやり取りとなりました。

さらに現代の子どもたちが抱える問題を解決する一つの方法としてＷＹＳＨ教育がビデオ映像による実践例とともに紹介されました。これは木原先生が提唱され、実践を重ねておられるもので、「子どもたちが自分で歩き出すきっかけを作る教育」であり、子どもの本音を引き出すことで子どもが自分自身を振り返らせる効果的な方法です。

ついで、家庭や学校が子どもに対して出来ることは何かとの問いかけが参加者に発せられ、家庭や学校の声が共有されました。

最後にメッセージビデオが流され、子どもが生まれた時に親として何を期待したか思い出して、もう一度初心に帰ることの大切さが訴えられました。そして「社会の変化を憂えてばかりでは何も変わらない。大人が本気で取り組めば子どもは必ず変わる。子どものために何かを始めてほしい。」との言葉が強いメッセージとなって参加者の胸にしみました。

大　会　宣　言

「『夢から志へ』～たくましく生きるチカラを育むために、今、私たちができること～」というテーマのもと、明治維新胎動の地、山口に、全国から多くの会員が集い、第63回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会山口大会が開催され、大きな成果を収めました。

変化し続ける社会の中で、子どもたちは、様々な困難に耐えるチカラを養い、自分の「夢」をカタチにしていくための基盤を作っていきます。高校時代は大人への入口であり、精神的にも身体的にも成長著しい重要な時期です。この時期に子どもたちが、夢を持つだけではなく、社会における自分の役割につながる「志」を立て、「志」を高く持ち続けることは、未来をたくましく生き抜くチカラとなります。

本大会では、子どもたちの「志」を育むために、家庭・学校・地域が連携・協働し、どのように社会総がかりで子どもたちを支え、応援できるかについて、熱心に研究討議がなされました。

ここに大会の成果を踏まえ、ＰＴＡ活動が新たに活性化し発展することを願って、以下のとおり宣言します。

記

一　子どもたちの勤労観や職業観の未熟さが指摘されている。子どもたちが働く意義を自覚し、将来の明確な目的を持てるよう、意識的に子どもたちと社会との接点を設け、職業を知り、体験できる場づくりに努める。

一　社会の多様化や流動化が進み、就職・進学を問わず進路選択をめぐる環境も大きく変化している。子どもたちが将来の夢と学業を結びつけ、自らの能力・適性を生かしながら主体的に進路選択ができるよう、キャリア教育の一層の推進に努める。

一　情報化社会の進展や少子高齢化社会を背景に、家庭･家族の有り様が変化し、個立化が進んでいる。子どもたちの望ましい発達を支援し規範意識を育むために、ＰＴＡ活動をとおして、地域の持つ多様な教育力を積極的に活用できる環境づくりに努める。

一　将来を担う子どもたちの豊かな成長は地域の願いでもある。子どもたちの「夢」や「志」を応援し、その成長・発達が地域の発展につながるよう、私たちは、子どもたちと地域をつなぐ役割を率先して果たし、魅力あるＰＴＡ活動の推進に努める。

第63回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会山口大会において宣言する。
平成25年８月22日

一般社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会

第一分科会　学校教育とＰＴＡ
～キャリア形成と職業観～

第一分科会では、「学校教育とＰＴＡ～キャリア形成と職業観～」をテーマに、宮城県立仙台二華中学校・高等学校ＰＴＡ会長の友坂実氏、千葉県立成田北高等学校ＰＴＡ前会長の野村豊氏、富山県立伏木高等学校ＰＴＡ前会長の川向清克氏、徳島県立城南高等学校ＰＴＡ副会長の喜多保仁氏の４名が事例発表を行いました。子どもたちの勤労観や職業観の低下が指摘される中で、これからの社会をたくましく生き抜くために、職業人としてのさらなる基礎的資質・能力が求められています。学校教育の中で、子どもたちに働く意味をしっかりと自覚させ、関心・意欲・能力・適性を引き出し、職業人としての必要な能力を育成するために、ＰＴＡとして何ができるかを考えました。

第二分科会　進路指導とＰＴＡ
～キャリア教育と進路指導～

第二分科会では、「進路指導とＰＴＡ～キャリア教育と進路指導～」テーマに、福島県立郡山高等学校ＰＴＡ会長の今川了一氏、静岡県立浜松西高等学校・中等部保護者教職員の会前会長の大山稔氏、滋賀県立八日市高等学校ＰＴＡ会長の富田実氏、宮崎県立日南振徳高等学校ＰＴＡ会長の酒井康光氏の４名が事例発表を行いました。グローバル化が急速に進展する中で、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断力や、新たな価値観、そして変化に対応する能力が求められています。こうした知識や能力を得るためには、小中学校から、進学そして修業までを見通したキャリア教育を推進することが重要です。早くから子どもたちが「学ぶ意義」を自覚し、「学ぶ意欲」を持ち続けることが、これからの社会をたくましく生き抜く力となります。ひとつひとつの体験を自分の進路意識に落とし込むなど、ＰＴＡが学校教育にどのように関わっていけるかを考えました。

第三分科会　生徒指導とＰＴＡ
～教育支援とコミニュティ～

第三分科会では、「生徒指導とＰＴＡ～教育支援とコミニュティ～」をテーマに、茨城県立笠間高等学校ＰＴＡ相談役の杉森加代子氏、新潟県立新潟江南高等学校ＰＴＡ会長の木場克俊氏、岐阜県立大垣工業高等学校育友会副会長の坂口智之氏、熊本県立鹿本商工高等学校育友会顧問の渡邉明子氏の４名が事例発表を行いました。学校を取り巻く諸問題を解決し、子どもたちの望ましい発達を支援するために、学校だけではなく、地域・社会の教育資源との連携・協同が必要となります。子どもたちの規範意識を育むために、地域全体で支援する仕組みづくりが求められる中で、ＰＴＡがどのような支援ができるかを考えました。

第四分科会　家庭教育とＰＴＡ
～人材づくりとコミニュティ～

第四分科会では、「家庭教育とＰＴＡ～人材づくりとコミニュティ～」をテーマに、北海道知内高等学校父母と教師の会会長の山田麻利子氏、東京都公立高等学校ＰＴＡ連合会西部北地区連合会の岩渕堅次氏、和歌山県立和歌山東高等学校ＰＴＡ会長の西山義美氏、愛媛県立松山工業高等学校ＰＴＡ会長の高梨聖丈氏の４名が事例発表を行いました。地域の発展をはかるためには、地域・社会や企業が求める人材を育てることが必要です。ふるさとを愛し、地域で活躍する人材を育成するためには、家庭教育を基盤とし、優れた能力と多様な個性を活かしながら、地域との関わりを持つ態勢づくりが欠かせません。その態勢づくりにＰＴＡが果たすべき役割について考えました。

特別第一分科会　熟議
地域社会総掛かりで教育現場を支える

特別第一分科会では、「地域社会総掛かりで教育現場を支える」をテーマに、36テーブルに分かれて体験熟議を行いました。当日の抽選により各テーブル10人ずつ、合計360人が体験者として討議に参加し、外れた方は見学者として討議の様子を観察しました。これを前半と後半の2回行い、総計720人が体験しました。

熟議の実際は、まず各自がテーマについて思いついたことを1つ1枚の付箋に書き、それを模造紙に貼り付けて全員で整理分類し、それに基づいてさらに討議を深めてテーブルとしての意見をまとめ、最後に全テーブルが発表し合い、さらに全体で意見交換するというものでした。

また、サブアリーナでは、「熟議」を通じて子どもたちの未来を考える取組みを展開してきた長門市民により、「食と健康」「自然と環境」「伝統と文化」という3つのテーマで模範熟議が行われました。長門市長や長門市議会議員の方々にもご覧いただき、実際に政策提言までを行いました。

参加者が課題解決や政策形成に果たす熟議の意義や役割を学び、この手法を活用してそれぞれの地域社会や学校の抱える課題に積極的に取り組んで下さるよう期待されます。

特別第二分科会　事例発表とパネルディスカッション
高校再編とＰＴＡ

社会の大きな変化に伴い、高等学校で学ぶ生徒の多様化や生徒の減少が続く中で、教育内容や教育環境の維持向上を図るために公立高校の再編整備が進められています。

特別第二分科会では、「高校再編とＰＴＡ」をテーマに、すでに再編に取り組んできた山口県立大津緑葉高等学校元監事の早川修氏と福井県立奥津明成高等学校ＰＴＡ会長の中村豊氏が事例発表を行いました。ともに3校が統合されるという困難の中で、新しい学校づくりに知恵をだし、汗を流す奮闘の日々が報告されました。その後、これから再編を控える北海道札幌拓北高等学校ＰＴＡ会長の長谷部直樹氏、岩手県立大船渡東高等学校ＰＴＡ会長の新沼秀明氏をパネリストに加え、パネルディスカッションを行いました。高校の再編にＰＴＡがどのように関わっていけば良いかを討議し、関係者には大きな示唆が与えられたことと思います。

▶早川修氏・中村豊氏による事例発表

一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会 後援
AIU 高校生国際交流プログラム
（参加費無料）

http://www.highschooldiplomats.org/
「育てたいのは、
子どもたちの未来。」
私たちは、AIU 高校生国際交流プログラムを協賛しています。
AIU損害保険株式会社
tel: 03-3216-6611 www.aiu.co.jp
AIU Member of AIG

MS&AD 三井住友海上
さあ来い！リスク。
リスクとトータルに戦う
総合保険ブランド［GK］
GK
三井住友海上火災保険株式会社
〒104-8252
東京都中央区新川 2-27-2
www.ms-ins.com

TOKIO MARINE NICHIDO
地球の未来にできること。
マングローブ「海の森」づくりは、
その答えのひとつです。

東京海上日動火災保険株式会社
東京都千代田区丸の内1-2-1
〒100-8050
http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/

日本の保険は、
ジャパンが変える。
損保ジャパン
株式会社 損害保険ジャパン
〒160-8338　東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL. 03(3349)3111
ホームページアドレス　http://www.sompo-japan.co.jp

らの便り
こにある」vol.20
ひたすらに頑張る子どもたち。
をもって導く先生たち、
Ａの仲間の姿をお伝えします。

沖縄県立久米島高等学校

「離島の自然、地域の中で、育み学ぶ」

学校概要

本校は、沖縄本島の西約１００キロに位置する久米島にある、唯一の高校です。久米島は古来「球美の島」と呼ばれ、琉球列島の中でも最も美しい島の一つと称えられてきました。

沖縄県立久米島高校は、終戦直後の昭和21年に県立糸満高校の分校として設置許可され、昭和23年に独立して久米島高校となりました。数度の学科改編を経て、現在は園芸科と普通科が設置されています。園芸科では、島の基幹産業であり時代の先端産業でもある農業について、実習を中心に学ぶことができます。普通科は、国公立大学や難関私立大学を目指す生徒のための進学クラスと、私立大学や専門学校、就職を目指す生徒対象の基礎クラスに分かれ、習熟度に合わせた学習指導が行われています。現在、生徒数は２１２名と小さな学校ですが、少人数ならではの丁寧な進路支援により、平成24年度の進路決定率は94％、園芸科に限っていえば１００％でした。

本校の魅力の一つ目は、なんといってもそのロケーションの良さ。グラウンドの前にはエメラルド色の海が広がり、世界に向けて道が拓かれていることを感じさせます。また町内には、日本の渚百選に選ばれたイーフビーチや、ラムサール条約に登録され世界的にも認められている湿地などがあり、生徒たちは豊かな自然を身近に感じながら日々学んでいます。

多彩な部活動

部活動も盛んです。野球部は平成24年度夏の甲子園県予選大会でベスト８に入る活躍を見せました。陸上では３年生の當間汐織さんが今年の国体・少年女子やり投げで３位に入賞、県新記録も塗り替えました。その他の運動部も年々順位を上げてきています。ＰＴＡではこうした生徒たちを応援するため、インターハイ前に激励のカレーパーティなどを企画しています。文化系では、吹奏楽部が今年の県吹奏楽コンクールＢパートで最優秀に輝きました。またコンピュータ・グラフィック部では、久米島町出身で現在ディズニー・フィーチャー・アニメーション社で映画「シュガー・ラッシュ」などのＣＧ制作を担当している糸数弘樹氏を講師に迎え、ハリウッドからインターネットを通じて指導をしていただいています。

充実した学校行事

もう一つの特徴は、地域とのつながりです。伝統行事であるハーリー（爬竜船競争）や久米島マラソンをはじめ、地域のさまざまな行事に全校生徒で参加しています。また毎年恒例の園芸科の生産物即売会では、生徒たちが育てた鶏の卵や野菜の苗などを買うために町民の方々の長蛇の列ができます。こうした機会を通じて、生徒たちの日頃の学習の成果を地域の方々に知っていただくとともに、生徒たちにも地域の一員としての自覚が生まれ、将来の久米島を担う人材育成につながっています。

さらに今年からは、久米島町の姉妹都市である米国ハワイ州ハワイ郡への短期交換留学が始まりました。久米島町から世界へ羽ばたくグローバル人材を育成しようと、町の助成を受け、８月に３名の生徒が第一期生として約２週間ホームステイをしながらハワイ郡の高校に通いました。短期間にも関わらず、生徒たちの英語力や積極性は飛躍的に向上し、国際的な視野という点でも成長が見られました。

そんな久米島高校ですが、少子高齢化も相まって、年々生徒数が減少しています。そこで高校活性化のため、久米島町との連携の下、久米島高校魅力化事業が始まりました。その一環として今年６月から久米島町教育委員会の嘱託員が高校に派遣され、高校のＰＲなどを行っています。また、平成26年度からは島外・県外からも積極的に生徒を募集しようと、現在準備を進めています。島外や県外からも生徒が入ることによって、多様な価値観に触れ、お互いに刺激し合い高め合うことができるのではないかと思います。離島のハンディをメリットに変え、魅力的な高校をつくるべく、これからも挑戦していきます。

「青春白書全国か
―輝く姿がこ
未来を見つめ、夢を追い求め、
その子どもたちを熱意
そしてＰＴ

愛知県立旭丘高等学校

校訓
「正義を重んぜよ。運動を愛せよ。徹底を期せよ。」

学校概要

本校は、明治３年に開設された洋学校（後の愛知英語学校）を元とする今年で１３６年の歴史ある学校です。洋学校を引き継いだ愛知一中の校訓「正義を重んぜよ。運動を愛せよ。徹底を期せよ。」は精神的伝統として脈々と受け継がれています。また、平成14年に竣工なった新校舎は、旧校舎の風合いを残した伝統校にふさわしい威容を誇っています。本校がある名古屋市東区北部は、ナゴヤドームや源氏物語絵巻で知られる徳川美術館がある文教地区でもあります。

全日制普通科24クラス・美術科３クラス、定時制普通科４クラスが設置されており、合わせておよそ１０５０名の生徒が在籍しています。自主・自立の精神に充ち、全人的完成教育を目標と定められた中、思考力や判断力、表現力を身につけた同窓生は全国各地で活躍しています。

多彩な部活動

19の運動部、15の文化部、４の同好会があり、全員が加入し活発に活動しています。運動部で目を引くのは、ボート部です。卒業生にはロンドン五輪シングルスカル日本代表選手がおりますし、毎年インターハイ出場選手や国体県代表を輩出しています。また、男子ハンドボール部は昨年全国選抜大会に出場して活躍しました。

文化部では、囲碁・将棋部、放送部、書道部が全国高校総合文化祭に出場しています。

充実した学校行事

鯱光祭とよばれる学校祭は毎年９月末頃６日間の日程で行われます。前夜祭、体育祭、舞台発表、分科会、討論会、文化祭、後夜祭からなる本校最大の行事です。中でも目を引くのは分科会と討論会で、前者は、生徒が講師となり得意な分野を専門的に興味深く語るものです。後者の討論会は、全校生徒をテーマごとに集めての大討論会。例年白熱した議論が繰り広げられます。しかし、鯱光祭のメインはなんと言っても文化祭。各クラスで発表内容を検討し、劇や展示、模擬店を行います。文化部の発表を含め、一つ一つの発表は生徒自身の手によって夏休み前から準備されます。特に３年生のクラス演劇は、毎年完成度の高い作品が上演されます。

美術科特有の行事としてはなんと言っても「旭美展」と呼ばれる卒業制作展でしょう。愛知県美術館を使用して６日間にわたって開催しています。卒業制作展だけあって美術科生徒の３年間の集大成で見応えのある展覧会となっています。

ＰＴＡ活動

本校ＰＴＡ活動で特筆すべきものの一つは林間学舎視察研修旅行です。これは、１年生が、６月に行う集団行動訓練で使用する岐阜県高山市奥飛騨温泉郷にある施設（林間学舎）を訪れて学舎での生活を体験すると共にＰＴＡ会員相互の親睦を深める研修旅行です。例年参加者も多く好評価の行事です。

今一つは、教育講演会です。毎年10月中旬に、各界から講師を招いて講話を伺います。本年度で35回を数えました。

これらの行事を中心に保護者の交流を深め、研鑽しています。

25年度　第1回全国会長・事務局長研修会　報告

9月22日、京都ホテルルビノ堀川にて今年度第1回の会長・事務局長研修会が開かれました。

講演会は最近TVや新聞でも活躍されている竹内和雄先生をお招きして「スマホ時代の大人が知っておきたいこと」と題して行われました。先生はスマートフォンの普及に伴う赤裸々な実態を衝撃的な映像とともにリアルに紹介されました。特にフィルタリングなしで急速に普及してきた「ライン」の持つ危険性について舌鋒鋭く警鐘を発しておられました。ラインによるやりとりが友人関係の強いストレスを生じさせていることや、いじめにも直結するツールになっていることなど、子供を持つ親にとってみれば背筋も凍るような話のオンパレードでした。PTAとしては絶対に看過できない問題であり、今後のPTA活動の重要課題であることが参会者の間でも認識できたように思われます。今後、青少年のインターネットリテラシーの向上に努めている関係機関との連携も進めながら、私たちとしてできることを積極的に追求する段階のようです。

講演に続いて、様々な報告が行われました。委員会報告の最後に、賠償責任補償制度の現況について、保険会社から最新の事例を交えながら、特に学校管理下の事故の考え方について詳細な説明が行われました。

次第
一、会長挨拶
二、講演　兵庫県立大学准教授　竹内和雄　氏
三、山口大会報告
四、福井大会準備状況
五、理事会報告
六、委員会報告

各委員会報告（9月21日）

健全育成委員会

委員長　外城戸　昭一

第2回健全育成委員会では今年度取組むテーマについて経過確認をした。

①アンケート調査について

各委員に状況報告を求めた。各地区で調査実施校が決まり、実施を待つ段階となっている。今後のスケジュールについて確認した。

②薬物乱用防止パンフレットについて

最新のデータに差替え分かり易い表現にした。表紙も刷新し、インデックスを両サイドに設け、見やすくなった。今後はパンフをどの様に活用できるかが課題である。

③自転車・バイク・歩行者のマナーアップ運動

スマホをしながらの自転車の運転やバスや電車における高校生のマナーの悪さが目に付き、安全対策だけでなくスマホのルールについても情報交換をした。今後は親としてどう関わるかが課題。

④ILASテストへのサンプリング協力

総務省事業のILASテストの向上を図るため、保護者を対象に1500人分のデータ収集を12月迄に行うこととし、各委員を中心に地区ごとに依頼することになった。

進路対策委員会

委員長　鈴木　敏彦

第2回委員会の柱は3つでした。第1に就職促進に関して中央省庁に提出する要請文を作成しました。次の3種類です。

①「新規高等学校卒業予定者及び既卒業者に対する雇用確保について」（厚生労働大臣・文部科学大臣宛）

②「緊急雇用創出事業の継続について」（厚生労働大臣宛）

③「キャリア教育推進のための財源確保について」（文部科学大臣宛）

第2に「高校生と保護者の進路に関する意識調査」について進捗状況と今後の予定を次の通り確認しました。

・9月20日・調査票発
・10月17日・回収期限
・12月15日・調査結果

（概要）報告と意見交換会

・2月、会長・事務局長研修会にて分析結果報告
・8月、全国大会で発表

第三に小林浩氏（リクルート進学総研所長）をお招きしてご講演いただきました。テーマは「大学入試改革の動向について」及び「高校生・大学生の就業状況と意識」でした。

調査広報委員会

委員長　関根　英樹

第2回委員会は、①会報76号の総括②会報77号の企画案③77号以降のスケジュール④会報の在り方⑤ホームページ（HP）の運営⑥全国大会における広報誌展示の方法―について協議しました。

①一面はインパクトがあり良かった。全体的に整っているが、一部で誤植等があり、委員全員でチェックする体制を確立する。

②全国大会報告を中心に構成する。

③従来を踏襲する。現在2校ずつ行っている青春白書は1校化を検討する。

④現在の方式を続けるが、よりよい会報目指して検討を重ねる。

⑤10月15日付でリニューアルする。その後、会員の意見等を参考に随時、変更する。

⑥全国大会の広報誌展示は、今回の山口大会を参考に、毎回、開催県にお願いする。

今回は特に、HPのリニューアルが最大の協議事項となりました。新たなHPに対して、会員の意見を反映していきたいと思いますので、ご意見、要望をお寄せください。

研修委員会

委員長　坂井　正人

第3回研修委員会では以下の事項について協議しました。

①25年度山口全国大会について

山口大会実行委員長と事務局長から所感を述べてもらい、研修委員各自から大会レポートを発表し大会の検証を行った。委員会としては、「コンパクトで良い大会であった」との意見で一致した。

②26年度福井全国大会について

実行委員長より進捗状況、内容について報告いただいた。前回委員会での指摘事項も改善済み。

③27年度岩手大会について

事務局長より大会概要について説明いただいた。メイン・サブ会場全て盛岡市内近隣で行う。

④26年度地区大会の取組状況

全国9地区の開催場所、日程、メインテーマについては後日集約する事となった。

⑤大会ガイドラインについて

次回委員会で検討。

⑥その他

山口大会のアンケートを各県会長・事務局長から協力いただき、集約結果をHPに掲載する。

シリーズ 祝点

輝く高校生！

世界に羽ばたけ！

スポーツ、芸術、学業さまざまな分野で世界に羽ばたく高校生がいます。輝く高校生。その活躍と保護者の思いを紹介するコーナーです。（調査広報委員会）

第４回目は、今年の６月にチェコ共和国で開催されたバレーボールの第17回世界ジュニア女子選手権大会にチーム唯一の高校生として出場し、準優勝の原動力となった京都府立西舞鶴高校３年井上愛里沙さんとご両親の井上正彦さん、知子さんです。

バレーボールの第17回世界ジュニア女子選手権大会は、６月中旬から下旬にかけ、チェコ共和国にて行われました。20歳以下の社会人・大学生を中心に編成された全日本ジュニア女子チームは、予選リーグは、タイ・コロンビア・中国・セルビアと同組で、２勝２敗で２次リーグに進みました。同リーグでは、ペルーを３―０で破り、準々決勝では優勝候補のトルコ、準決勝では前回大会優勝のイタリアを破り、決勝進出を果たしました。決勝は、世界ランキング１位の中国と対戦し、惜しくも敗戦しましたが、ランキング上位の国を次々と破り、見事に準優勝を勝ち取りました。京都府立西舞鶴高校３年の井上愛里沙（いのうえありさ）さんは、チーム唯一の高校生ながらウィングスパイカーとして、28年ぶりとなる準優勝に貢献しました。

▶写真　国際バレーボール連盟より提供

◀小田垣京都府教育長（右から２番目）を表敬訪問した愛里沙さん

お父さん お母さんへ インタビュー

―幼少の頃は、どんなお子様でしたか。

生まれた時から手足が長く、背も他の子どもたちと比べると頭一つ抜けて高かったので、幼稚園の行事など同年代の子どもと一緒に行動する場面では、どこに行っても目立っていたと思います。また、幼稚園の頃に始めたピアノでは課題曲をすいすい弾くなど器用な面もあって、ピアノの先生からも期待していただき、発表会やコンクールにも出させていただきました。

娘が小学校に入るまでは、父親も社会人のクラブチームでバレーボールをしていましたが、あまり観に行った記憶もなく、家で一緒にバレーボールをして遊ぶわけでもなく、近所の友達に誘われて小学校で練習していた余内小バレーボールクラブを見学に行ったのが始まりだったと思います。

―お子さんを育てられる上で、大切にしておられることはありますか。

子どもには何かしらの可能性があると信じて、人に迷惑をかけない限り自分自身がやりたいことをとことんやらせることです。必要以上に干渉せず、何事にもできる限り本人の意志を尊重したいと考えています。

―愛里沙さんが日本代表として選ばれたときのお気持ちは。

高校へ進学するときには、もうバレーボールをしないと思っていたので、高校の部活動でバレーボールをすること自体が驚きで、ジュニアの日本代表に選ばれるなどは想定外のことだったので、本人も含め最初は正直戸惑いました。しかしとても光栄なことであり、周囲の方から「おめでとう」と声をかけられ、改めて凄いことなんだと実感しました。今はただ、小学校から高校まで一緒に頑張ってくれた多くのチームメイトと先生方に対して感謝の気持ちでいっぱいです。

―世界選手権の期間中は、試合をご覧になりましたか。

大会期間中はインターネット上で試合結果や動画を見ていました。毎日ドキドキしましたが、あっという間に勝ち進んで決勝戦まで勝ち残り、最後の試合だけはインターネットのライブ中継を朝の３時から観て応援していました。

―今後についてどのような思いを持っておられますか。

今までバレーボールを通じていろいろな人に出会い、支えてもらい、貴重な経験もさせてもらったので、今後もバレーボールを続けて、さらに上を目指して頑張ってほしいと思います。そして将来のことも考えながら、いろんなことを勉強して視野を広げて、後悔のない生き方をしてほしいと願っています。

プロフィール

◆井上愛里沙（いのうえありさ）

京都府舞鶴市出身。舞鶴市立余内小学校２年からバレーボールを始め、小学６年の時には全国ベスト16。中学校は岡山市の強豪校に進学し全国３位、全日本中学選抜にも選ばれた。しかし高校進学に際しては、医療分野に関心が高かったため、進学を見据えて地元の京都府立西舞鶴高校に進学。勉強にも励みながら、同高バレーボール部で京都府大会ベスト４まで勝ち進んだ。『非常に頭がよく、攻守のバランスも取れ、冷静に全体を見渡すことができる。また、盛んに声を出してチームを引っ張ったりチームプレーの大切さを説くなどチームにとってなくてはならない選手』（西舞鶴高校監督弁）であった。

ホームページリニューアル

10月15日、ホームページを全面的にリニューアルしました。従来よりも見やすく使いやすいものを目指し、全体的に明るく軽快なデザインにしました。しかし、まだまだ未熟なホームページであり、現時点でも次のような課題を抱えています。利用者の皆様からもご意見や要望をいただきながら改善を図っていきます。皆で育てるホームページとして親しんでいただければ幸いです。ご意見を事務局までお寄せください。

【課　題】

①メニューの整理

現在、トップページにおいてある８つのメニューのうち、「お知らせ」は実質的に過去の刊行物の紹介であり、「ニュース」は事務局作成のトピックスとなっています。「事務局便り」は今回新設しましたが、「ニュース」との差異が不明確です。これらの各メニューの内容を検討してそれぞれが扱う分野・領域を明確に区分することが必要です。

②「活動紹介」の充実

「活動紹介」は各地区連合会の活動と各都道府県市連合会から寄せられた単位ＰＴＡの活動紹介です。各地区連合会の活動は「総会資料」掲載の情報に留まっていますので、トピックス的な内容を盛り込むことが必要です。また、単位ＰＴＡの紹介は、現在、毎月１校ずつ決められたローテーションで掲載していますが、このままの流れでよいかどうかも再検討が必要です。

③イメージ写真の更新

明るく元気なＰＴＡ活動のイメージを随所にちりばめたいので、各連合会や単位ＰＴＡで「いい写真」があれば是非ご投稿ください。

相川順子会長の つぶやき

公立高校の授業料不徴収に所得制限を設ける改正高校無償化法が成立した。生徒全員が対象だった制度はわずか四年で終了する。都道府県県教委は来春までに授業料徴収システムの構築を迫られる▼大学入試制度改革を視野に入れた「達成度テスト」の導入についての審議も佳境だ。中教審の中で討議は続く。委員の一人として具体的な提言していくが、これからが正念場となる。なかなか厳しい論議になりそうだ▼高校生を取り巻く環境の変化は著しい。教育環境の他にも、スマートフォン（多機能携帯電話）の普及による生活習慣の変化もある。誰もが使う自転車による事故は、高校生にこれまで考えられない賠償額が請求されたりする▼問題は多岐にわたりますます複雑化している。だからこそ親としてしっかり見守っていかなければいけない。いろいろな課題をひとつひとつクリアしていくことで、高校生が健やかに育ち、それぞれがレベルアップして、生きる自信につながってほしいと願う。

楽しい、元気がでる！ そして、ためになる。

高校生新聞®　高校生スポーツ®

●1993年10月創刊　●全国約4,000校の生徒が愛読
●タブロイド判/オールカラー/平均24頁　●毎月10日発行

勉強、部活、行事と忙しい学校生活。進路や友人関係など悩みもあることでしょう。高校生新聞・高校生スポーツはそんな高校生を応援する新聞です。毎号読めば、やる気アップ、毎日が充実すること間違いなし！ 高校生はもちろん、先生方、保護者、中学生も必読です。

▼ホームページでも高校生のニュースを発信！
高校生新聞　検索

株式会社スクールパートナーズ
高校生新聞社
http://www.koukouseishinbun.jp/
編集部　TEL.042-725-1155
FAX.042-724-2710
henshu@sclpa.jp
本　　社：〒194-0022 東京都町田市森野１-３４-１０
西日本支社：〒552-0013 大阪府大阪市港区福崎３-１-１４８
北海道支社：〒060-0004 北海道札幌市中央区北４条西５-１